ようこそ！夢の本棚へ

発行所：松居直コレクションプロジェクト
代　表：金戸 美紀子
事務局：石川県小松市
小馬出町10-3
空とこども絵本館
☎ 0761-23-0033
bookrin@city.komatsu.lg.jp

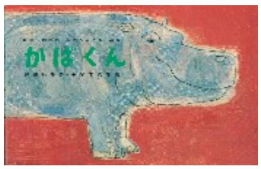
【活動方針】①絵本の楽しさを伝える〈親子読書の奨励〉②絵本の歴史を学び、進むべき方向を考える〈絵本文化の研究〉
③市が所有する知的財産として、次世代に正しく伝える〈絵本文化の継承〉

「こどものとも」で育む豊かな心と生きる力④
～日本の文化を海外の子どもたちにも体験させたい～

翻訳への口火を切った絵本

◆これは岸田衿子さんと中谷千代子さんの２冊目の本（『もりのでんしゃ』）なんですけども、一番最初のは『ジオジオのかんむり』という縦長の本で、３冊目が『かばくん』という世界的に知られた本なんです。お二人は東京芸大の同級生で、出世作です◆中谷さんは、横長の場面というのをここ（２冊目の本）でトライしてらして、それをもっと見事に活かす方法で描かれたのが『かばくん』だったんです。上野の動物園に毎日毎日かばを描きにいらしたんですね◆『かばくん』を作りました時に、すぐ後でたまたまフランクフルトのブックフェアがあって持って行ったら、ヨーロッパやアメリカの編集者が、次から次へ見に来ました。特に、オランダとベルギーの編集者が連れ立ってやって来て、ほんとに見てくれましたね。その後ですぐに『かばくん』が、アメリカとイギリスとデンマークとフランスとで翻訳されていったんです◆実は、日本（福音館書店）の本は相当、海外で翻訳されてるんです。現在８０４冊かな、海外版が出ています。だいたい言語にしますと41言語出ております。ですから、海外の人は、相当日本の本を読んでる。それが私の夢でもありました◆日本がいつも輸入するばっかりじゃなくて、日本の文化を知ってほしいと、文学だとか絵画だとか現物を外国の子どもたちに子どもの時に体験してもらうという地盤を作っていくことがとても大切だというふうに考えていましたから、『かばくん』はほんとに幸せなことに、その口火を切ってくれました。

岸田衿子さく/中谷千代子え
６８号/１９６１年１１月号



岸田衿子作/中谷千代子画
７８号/１９６２年９月号

絵本作りの名手との出会い

◆フランスに、私が世界で一番尊敬していた絵本作りの名手、ペール・カストールという人がいます。フラマリオンという会社でずっと絵本の編集をしていて、フランスの絵本の現代の基礎を作った方です。『アルバム・デ・ペール・カストール』というアルバムを出しています。私は、その仕事からたくさんの影響を受けました。本名は、ポール・フォシェって人なんですが、ベッティーナ・ヒューリマンさんが紹介してくださって、フランクフルトのブックフェアの帰りにフランスのパリに寄りまして、会いに行きました。

カストール氏からの出版要請

◆その時に『かばくん』を渡したら、ものすごく興味を持たれたんです。まだ翻訳がありませんから、通訳をしてくださった方がフランス語にその場で訳し終わられた時に、カストールさんが「あ、これは俳句ですね」とおっしゃったんです。また「これはヨーロッパの人には描けない。この線は浮世絵の線に通じますね」と。さらに「こういう薄塗の絵も描けない。これは油絵で描いてあるんだけども、まさに日本の本だと思う。これをフランス語で出しますが、いいですか」とおっしゃったんで、私はびっくりしたんです◆カストールさんは、翻訳の本は出したことがないんです。全部オリジナルで作ってる。どこの国の物語でも。にもかかわらず、これを翻訳で出すとおっしゃったんで、私はものすごく光栄なことだと思いました。

（つづく）

Q：〝アルバム・デ・ペール・カストール〟って？

A：フランスの出版人、ポール・フォシェが「絵本こそ教育の道具として最適だ」と考え、１９３１年に創刊した絵本シリーズ。自ら〝ビーバーおじさん〟（ペール・カストール）と名乗り、子どもに優しく語りかけるなど、廉価な紙に針金綴じの簡易な本は、世界各国に影響を与え、今日でも刊行されています。（３０年余で３２０冊）